



【土壤関係】

◆深耕について(物理的性質の改善)

排水の悪い園では特に有効土層を深め、土壤の通気性や透水性を良くして根の活動を活発にさせる事が重要です。若木で伸びの悪い樹や、水田の際等は実施する。

1. 時期:落葉期から年内に実施する。できれば11月中旬に実施したい。

※遅れると細根の発生が少なくなり、春先の干ばつの害を受けやすくなる。

2. 対策

1) 条溝法

①若木や排水不良園に適している。

②深さ40~50cm・幅30~40cmの溝を樹間に掘る。

③1年目縦・2年目横と場所を変えて繰り返す。

④根の広がりに対して直角の方向に処理をする。その際は 根の先端をわずか断根する程度とする。断根が20%を越えると生育障害の原因となるので、注意する。

2) タコツボ法

①深さ40~50cmの穴を掘る。

②樹幹から2m程度の場所に穴をいくつか(4~8ヵ所)掘る方法。

③毎年掘る穴の場所を移動させる。断根が少なく成園向き。

④ただし排水不良園では掘った所に水が溜まりやすいので、排水対策も併せて行う。

3) 深耕後は、有機物等の土作り肥料を投入して下層まで改良する。

4) サブソイラーやバックホーを利用する。

5) 1度を行うと断根により樹勢低下となるため、5~6年かけて樹幹周辺を一巡できるよう計画的に行う。

◆土壤pH(酸度)の調整について(化学的性質の改善)

作物が適正に生育し、養分が吸収できるようになるには、作物毎に適正な「pH」範囲がある。

近年の土壤診断の結果は、適正範囲外が目立っており、特に適正範囲より中性に傾いている状態となっているため肥料養分の吸収や根の張りが悪くなっている。

1. pH(酸度)の適正範囲と過去の検査結果

品目	適正範囲
りんご・なし	6.0~6.5
もも・ブルーン・とうとう	5.5~6.0
ぶどう	6.5~7.0
あんず・うめ	5.5~6.5

2. 土壤診断の結果 pH(酸度)が高い場合

1) 対応方法

①pHを上げる資材(炭酸苦土石灰・サンライム・醸酵けいふん等)は、施用しない。

②土壤pH降下剤の施用を行う

・土壤pH降下剤の施用時期:基肥と同時施用でも良い。

・施用資材及び施用量:ガッテンペーハー ⇒ 10a当たり5袋(50kg)

2) 留意事項

①樹冠の根のある範囲まで施用する。

②施用後、耕うんできる場所は軽く実施し、土壤と混和する。

③施用の際は手袋・マスク等を必ず使用し、取り扱いには十分注意する。

④石灰(カルシウム)成分のある肥料を同時施肥はしない。

⑤土壤診断の結果により、継続的施用が必要。

3. 土壌診断の結果 pH(酸度)が低い場合

1) 対応方法

- ①pHを上げる資材としてサンライムプラスを施用する。
 - ・施用時期: 基肥と同時施用でも良いが、できれば2週間前に施用した方がよい。
 - ・施用量 : 3袋／10a 当たり 状況により調整する。
- ②留意事項: 新植園ではpHが低い場合が多いので施用する。

◆土壤改良材(堆肥)の施用について(生物的性質の改善)

一般的堆肥と同様に施用量が多いときは園内全面に用い、少ない量では樹冠下(根域)を主体に施用して腐植等有機質の補給を行う。

1. 堆肥の種類

資材名	成分(%)	特徴
グリーン長野堆肥	窒素 1.1 ·リン酸 0.8 ·加里 0.3	炭・バーグ主原料に牛糞を配合
エアーポイント	窒素 1.07 ·リン酸 2.18 ·加里 0.88	コーンコブ主原料に鶏糞と微生物を配合
みのり堆肥	窒素 0.6 ·リン酸 0.6 ·加里 0.6	樹皮(バーク)主原料に牛ふんを配合
スーパー腐葉	窒素 0.79 ·リン酸 0.25 ·加里 0.49	広葉樹の枝葉

2. 施用量: 10a当たり1～2トン程度を施用する。

連年施用する場合は札肥・基肥を減肥する必要がある。堆肥であっても窒素成分はあるので、施肥量が多すぎると遅伸び・着色遅れ・成熟遅れなどの原因となるので注意する。

3. 草生栽培園では施用後の耕運を行わなくともよい。

◆果樹の施肥基準について(共通事項)

1. 基肥については各果樹情報や施肥防除の手引【果樹編】を参照。
2. 土壌診断を積極的に活用し、その結果から適正な施肥に心がける。
近年の土壌診断の傾向は、土壌PHが高い(7.0の中性に近づいている)、石灰・リン酸・加里過剰、苦土・微量元素不足です。
3. 施肥基準は成園・成木を基準にして記載されているため、幼木は3分の1程度、若木は2分の1程度を目安に実施する。ただし樹勢の強い若木は、当面窒素成分を無しとする。
4. 樹勢・樹齢・生育状況や土壌検査の結果から施用量は増減する。

【病害虫関係】

◆落葉処理について

色々な病気は被害葉で越冬し来年の発生源となるので、落葉を集めて土中に埋めるか焼却する作業を徹底する。尚、腐敗果実(ミイラ化したものなど)も園内に放置せず、きれいに処理することが大切であり、地際部は敷きわら等を取り除き、きれいに整地しておく。

【その他】

◆「チェック！ながの県農業サポートメール」紹介について

県では農業被害の未然防止と被害軽減を図るため、災害発生の恐れがある場合、農業者の皆さんに技術対策を直接お届けしています。現在、より迅速に、かつ確実に情報をお届けするため、民間の「メールマガジン」を活用した情報配信を無料でしていますので、ご活用ください。

1. メールマガジン(株)まぐまぐ
 - 1) 配信時期: 災害の発生が予測される場合、その都度配信します。
 - 2) 受信: スマートホン等の端末
2. 配信する情報
晩霜や台風の影響など農業災害が予想される時などに、事前対策などの情報をお知らせします。
3. 登録方法 【URL】 <http://www.mag2.com/m/0001627956.html> より

◆農作業に係る留意事項について

本年、長野県では農作業中の死亡事故が多発している。熱中症対策も含め、「安全確認・注意・休息」等をし、農作業を実施する。

また、地域住民より苦情が寄せられています。同じ住民として、配慮しながら農作業をしましょう。

1. 農機具利用（スピードスプレーヤ・動力付噴霧器・爆音機等）の際は、日中も含め特に極端に早い時間等の騒音に注意する。

特にこれから収穫時期は、爆音機の爆音（バードガードなども含む）による苦情が、毎年県及び市へ報告されます。

①住居から直線距離で200m未満の位置で使用しない。

②200m以上離れていても設置期間を必要最小限にし、近隣住民の生活環境に十分配慮する。また、筒先を住宅地に向けないように配慮する。

③早朝・夜間には使用しない。使用時間は日の出から日没までとし、住居がある場合は睡眠の妨げにならないようにする。

④爆音機に代わる防鳥網・テグス（糸）など使用する。

2. 子供たちの登下校、通勤等の時間等、薬剤散布に注意し、対策を実施する。

3. 近隣に住宅等ある場合は、住宅や洗濯物への飛散をしないよう、配慮しましょう。

4. 剪定枝の焼却は、消防書への届け出を必ず行い、大きな火種や煙に注意（凍霜害資材の燃焼）し、適正な処理をしましょう。

※薬剤防除や焼却は、必要に応じて近隣住民に事前にお知らせする等も実施しましょう。

5. 热中症対策

農作業中の熱中症を予防するため、炎天下の長時間にわたる作業は控え、日除け対策を万全にする。

高温が続き疲労が溜まっていると思われますので、「農作業の安全」に対する意識を常に持つよう心がけ、農作業中の事故を起さないようご注意下さい。

◆果実袋処分について

園内に果実袋が落ちたままの園が散見される。

近隣の園や住宅から「風で舞って来て困る」との苦情が寄せられる前に、処分をお願いします。

◆盗難に注意しましょう

各地で農作物の盗難事件が発生しています。

今後も盗難される可能性があるので、収穫間際の品種は特に気をつけ、地域ぐるみで自衛手段を講じてください。また、農業資材・農薬や農機具の盗難にも気を付けるように管理をお願いします。